

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4390300525		
法人名	(有) 介護生活研究所		
事業所名	グループホーム すずらん		
所在地	熊本県人吉市鬼木町1423-1		
自己評価作成日	平成24年3月16日	評価結果市町村受理日	平成24年4月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市南熊本三丁目13-12-205		
訪問調査日	平成24年3月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

信頼関係を「ゆっくりいっしょに」築いていきます。ご本人やご家族との信頼関係を築く事が大切で、その信頼関係の中で創りだされる「ゆっくりであること」「いっしょであること」を念頭に自立した生活ができるように介護支援を行なっていきたいと思っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自然環境豊かな地に開所した当ホームは理念である「ゆっくり、いっしょに」を支援の柱とし、入居者や家族、地域やホームに関わるすべての人々とゆっくり、いっしょに時間を共有しながらこの1年を過ごしている。若き運営者や管理者は自らも率先して業務に関わり、職員に対しても一人ひとりの入居者をよく知り、敬いの心を持って接する事を折に触れ確認している。入居者はホール前の広い庭に自由に出入りし、季節の草花が咲くホーム周辺を日常的に散歩しながら近隣の人々と挨拶を交わしている。自宅へ庭の手入れに出向いたり、馴染みの理容店での散髪や趣味の継続等、自宅の延長としての生活を満喫しその表情は生き生きとして穏やかである。この1年の取り組みに家族も信頼を寄せている所であり「家族会」がホーム運営に果たすべき役割は大きいものと考えて、今後のホームの活躍が大いに期待される。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入社時基本理念を伝え施設方針を共有している。玄関にも掲示しご家族、外部者にも随時確認して頂けるようにしている。時間に追われる事なく生活して頂けるようにしている	基本理念である「ゆっくり、いっしょに」に込められた思いは、短い言葉の中に入居者に関わるすべての場面で必要なものと考えている。管理者は職員に対し入職時や折に触れ理念について話す機会をもち、1年が経過した今では浸透してきたと語っている。入居時に家族には理念を含めホームの方針を伝え、運営推進会議の中で参加者に対し啓発している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩など外出の機会を多く取り入れ、行事ごと等の参加、案内を行ない顔なじみ関係作りをめざしている	ホームは地域の自治会に加入し、区費の支払いや清掃活動等に職員が参加している。管理者は開所前に近隣に挨拶し見学会には地域の人々が訪れている。散歩中に立ち話をしたり食事会に誘われる等、地域交流も増えて来ており、ホーム行事(餅つき会)に近隣に声かけし、何時でも来園してもらおうよう伝えている。古くから伝わる伝統行事に参加し、入居者が地域の一員として生活する喜びを支援している。	実習生の受け入れに併設のディサービスが取り組んでおり、今後はホームでも小、中、高校生の福祉体験の受け入れ等を検討いただきたい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近所の高齢者の散歩の休憩所などに利用して頂けるよう声掛けを行なっている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者、ご家族、町内会長、民生委員、近隣住民、市役所から参加していただき現状報告を行ない、意見を頂き、運営推進会議後、報告を行ない情報共有を行なっている	推進会議のメンバーとして行政や民生委員、入居者や家族と共に近隣代表者も参加している。入居者の状況や活動報告、事故報告を伝え参加者の意見や提案を受けている。参加者より徒歩で行く事の出来る神社の情報や、ホーム前の側溝工事の情報等、地域の身近な情報が寄せられている。ホーム近くのカーブミラーも参加者の提案により設置に至っている。	現在、家族の参加は1家族のみとなっているが、全家族へ参加依頼する事で会議内容の更なる充実に繋がると思われる。議事録の開示方法と合わせて検討いただきたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議時報告を行ない現状報告を行なっている。また、介護保険の更新時の書類申請など行ける利用者の方は一緒に市役所に行くようにしている	運営推進会議では行政よりホームの取り組みへの質問や体調管理、流行性疾患等について助言を得ている。管理者は推進会議の案内状を直接担当者に手渡し、書類提出時は入居者も一緒に出かけている。認定調査には管理者や看護職員が立ち合い正確な情報を提供している。	包括センターの取り組みに協賛し、近隣に住む高齢者の外出支援(ホームまで散歩する事で職員より印鑑をもらう)を手助けしているが、現在中断しており、今後は継続したいとしている。再開により地域高齢者支援に期待したい。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間以外は特に施錠を行なっておらず、徘徊などあれば必ず付き添い対応を行なっている	勉強会や日々の業務の中でも管理者は指導に心がけ、職員は身体拘束の意味を十分理解して対応している。日中は玄関やホール前の窓等、すべてオープンであり入居者の自由な生活を支援し、外出傾向のある入居者へもさり気無く寄り添い一緒にホーム周辺を歩く事で安心されている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	現在研修は出来ていない		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	開設者が成年後見人研修(ぱーとなー熊本)を受講していて、来年度から職員研修に組み込まれている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時に説明を行ない、署名、捺印をいただいている。また、質問等あればその都度返答している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的に連絡を行ない、現状報告を行なっている。問題があればすぐ対応を行なっている。年1回家族会を開き参加出来る方は参加していただいている。また、面会時に要望あればお伺いしている	運営に関する入居者からの要望はないが、日頃より職員は入居者の声に耳を傾け、ゆっくり話を聞くよう努めている。家族へ入居者の状態を定期的に報告し、面会時や電話で意見や要望を収集して毎月のミーティングにて検討している。これまでに家族からの苦情は1例もなく、自宅での生活を継続してほしいといった声が上がっているが、ホームも家族の思いを十分認識して支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回ミーティングを行ない話し合いを行なっている	運営者や管理者は、職員の意見や提案を何時でも受けつけ、3ヶ月ごとの個人面談で悩みや相談事にも応じている。ミーティングにて業務改善を図り、空気清浄機等の物品購入に至っている。職員の入職時に何をしてやればいいかわからないといった戸惑いに、管理者は理念に立ち返る事を指導している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	出来る限り希望を聞き入れ対応している。ストレスをためないよう働きやすい環境作りに努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に研修会に参加し、希望の研修会などあれば申し込みを行なっている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ブロック会の研修に参加し、意見交換を行なっている		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前、入居後ご本人さんによく話を聞き、安心して生活して頂けるよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	話を聞き、状態報告を行ないながら連絡調整を行なっている。出来る限り要望に対応できるように努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	施設だけでの対応ではなく状況に応じて話し合いを行ない、個々にあったサービス提供が出来るように努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	いっしょに、ゆっくりと同じ時間を過ごし話をよく聞きながら、安心して生活して頂けるよう努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	連絡調整を行ない、定期的に外出、外泊をして頂いている。定期的に状態報告を行ない、活動写真等郵送している。変化などあればその都度連絡を行なっている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御自宅に帰り近所の方と交流をしたり、入居前に行かれていたデイサービスに見学に行ったりしている	地域に伝わる入居者に馴染みの伝統行事を見学したり、自宅へ同行して庭の手入れや野菜の収集を一緒に行う等、在宅時の生活をそのまま支援している。遠方にいる家族へも面会を依頼したり、家族の協力による外出や外泊の機会も得られている。趣味の編み物や縫物、ギター演奏や絵等入居者の得意とする事も引き続き支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が状況を把握し関係作りに努めている。少数での活動や、全体での活動その時その時に合わせた対応を行なっている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在は出来ていない		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居される前の生活を大切に、ご本人様の生活をくずさないように努めている。活動参加などは声掛け行ないその日の状態で参加していただいている	入居者の思いを引き出しながら表現困難な方へは、生活歴から推察したり家族からも聞き取っている。入居者の体調をみながら、この1年外出の機会を数多く支援し、「今度は何処に行こうか」と言った入居者の楽しいな会話も聞かれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日常会話の中で情報収集など行ない、変わらない生活ができるように努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	モニタリングを行ない必要な介助の検討を行ない、状態把握につとめている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回状態報告を行ない見直しをしている。必要に応じてその都度話し合いを行なっている。	入居者を職員の担当制としており本人、家族の希望をプランに反映出来るよう、日頃の観察や状態把握に努めている。担当者会議に入居者が参加したり、プランの説明を受けて自らサインをされる方もおられる。3ヶ月から半年ごとに見直し現状に即したプランとなっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	勤務交代時に申し送りを行なっている。状態はその都度カルテ、申し送りノートに記入し状態観察に努めている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	話し合いを行ない、出来るだけ対応できるように努めている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事、イベントなど参加、見学し楽しみを見つけながら生活が送れるよう努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力病院以外でも入居される前のかかりつけ医への受診を行なっている	入居前からのかかりつけ医を継続し、受診は看護職員を中心に付き添い、受診申し送りノートを通し職員間で共有している。又、家族とは常に連絡を取り合い情報を共有し、緊急時の対応についても了解が得られており、バイタルチェックで異常の早期発見に努め、早めの受診を心がけ入居者の健康を支えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常生活の中で気づきを大切に少しでも変化があれば看護師に相談、必要に応じ早目の受診を行なっている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合は定期的に病院に訪問し状態報告を受けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在は行えていない	開設1年目のホームであり、看取り支援は実施されおらず、今後体制作りを行っていく意向である。入居者・家族の希望に添い、往診可能な協力医や個々の主治医と連携を図り、ホームでできる限りの支援に努めたいとしているが、医療中心となった場合は医療機関での対応となる事を入居時に話し合っている。	ターミナルケアの研修に参加しており、今後も看護に関する職員研修を重ね重度化時のホームの方針を明文化し、家族・職員間の共有を図る等の体制作りが期待される。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ほぼ全職員消防署の普通救命講習を受講している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年間2回の避難訓練を行なっている。地域の方を含めた訓練は行えていない	昼夜想定で2回の避難訓練を実施し、水消火器を使った消火訓練や消防署からの講評などが行われ危機意識の向上に繋がっている。新築のホームにはIH調理器やスプリンクラー・自動通報システムなどが設備され、東西の出口にスロープを設置し、何処からでも外に出られる掃き出し窓など非常時の避難経路は多様であり、まずは火を出さない事を意識付けている。	今後は近隣の見守りを含めた相互協力や、地域消防団との協力関係等地域との話し合いが期待される。又、地震・風水害に対する対策や備蓄等を検討頂きたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その方その方の人格を尊重し、失礼のないよう心掛けている	一人ひとりの生活歴を尊重し人生の先輩として敬意を持った言葉づかいを心がけ、親しみを込めた方言での話しかけが馴染み合いにならないように注意している。排泄・入浴時はプライバシーに配慮し、ホーム名である“すずらん”の花言葉が示すさりげない寄り添いの支援を実践している。個人情報保護を遵守し、書類管理や守秘義務の徹底に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃の話し掛け等で希望を聞き、出来るだけ希望を取り入れるようにしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	いっしょに、ゆっくりと。慌ただしく時間が流れる事はないが、全利用者のどのように過ごしたいかとの希望には答えられていない		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	施設の外に出られる時など声掛けを行なっている。また、施設におられる時も同じ服にならないよう心掛けている。女性の方は希望があれば化粧、マニキュアなども行なっている理美容も声掛け行ない整髪している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りや皿洗い、皿拭きなど出来る方には行なって頂いている。盛り付けなども注意している。	嗜好を反映した献立は調理担当者によって調理され、入居者は座位での下ごしらえや食器拭きなどできる事を手伝っている。誕生日は本人の好物やケーキ等の特別メニューでの提供を行い、嚥下状態に合わせた刻みやとろみ食等個々に応じている。プランターで育てた野菜が食卓に上る事もあり、今後畑を作る構想もあり入居者の楽しみが広がっていくと思われる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チェック表作成し評価している。水分量が少ない方には声掛けしている。食事量の少ない方には捕食等行ない体調管理に努めている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、毎食後口腔ケアの声掛けを行なっている。介助必要な方は職員毎食後介助を行なっている		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その方にあったりハビリパンツ、パットを使用している。時間ごとに声掛け、誘導を行ない失禁の軽減に努めている	排泄チェック表の記入でパターンを把握し、見守りや誘導など個々に合わせトイレでの排泄を支援している。一人ひとりの排泄用品やパットの種類を検討し昼夜での使い分け等適切な使用に努め、申し送りで職員間の共有を図っている。夜間使用のポータブルは洗浄・消毒を心がけ清潔に使用されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便困難のある利用者様には個々に合わせた声掛け、内服管理、排便状態の観察を行なっている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	夜間浴は行っていないが、日中に関しては声掛けを行ない本人様の良い時に入っている	毎日や一日置きの間隔で希望に応じ支援しており、汚染時などはその都度対応している。拒否に関しては声かけのタイミングや工夫で間隔が空かない様に清潔保持に努め、時には気分を変えて入浴剤を使用したり、しょうぶやゆず湯の季節風呂や足浴等が取り入れられている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	状態に応じて臥床して頂いたりしている。昼間の臥床ながくならないよう声掛け行い、夜間よく休めるように心がけている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服の一覧を作成し、副作用の確認を行っている。誤薬が無いよう服薬管理に気を付けている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	事業所だけの生活にならないよう、野外活動を充実させ趣味活動や散歩、ドライブなど気分転換を行なっている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候を見ながら野外活動を行なっている。季節ごとの行事、お祭りなどに出掛けるようにしている。また出掛ける際はご家族に報告を行ない出掛けるようにしている	天候に合わせ近隣の散歩や庭での外気浴、季節毎の花見ドライブ(梅・桜・しょうぶ・ひまわり・薔薇・コスモス等)や地元の祭り見物等数多くの外出を支援している。自宅訪問や元機関士の男性入居者とのSL見学、家族との外出・外泊が行われる等個々の希望に添った支援に、一人ひとりとの関りを大切にできた今年度の成果が表れている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ほとんどの方が持っておられる。受診などの費用は預かり金で賄っているが、ショッピングなどに行かれた際はご自分でお支払いしていただけるようにしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	面会の少ない方で、電話出来る方には電話しお話しして頂いている。年賀状は全利用者一緒に書いて頂き親しい方に出していただいた		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせたカレンダー作りをして頂き毎月掲示している。飾り付けもその時折に合わせて行なっている。	自然環境が残る静かな住宅街にあるホームは騒音もなく、リビングを中心に対面式の台所から食事準備の音や匂いが五感を刺激し、ソファで寛いだり段上がりの和室でお茶を飲んだりと入居者の穏やかな日常がある。季節の花が飾られ入居者の写真や作品の貼り絵等が掲示されている。新築のホーム内はバリアフリーが行届き、温湿度管理を行い快適な共用空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーや和室でゆっくり過ごして頂けるようにしている。日当たりも良くソファーでお話などされ過ごして頂くようにしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前ご自宅で使用しておられた物等を持って来て頂くよう声掛けを行なっている。持って来られている方もいらっしゃいますが持って来られない方もいらっしゃる。使用しやすいよう配置している	入居時に使い慣れた品物の持ち込みを依頼し、テレビや自分で造られた茶筆筒・趣味のギターや絵画など思い出の品物が持ち込まれている。押し花教室の作品を飾ったり、居室に洗濯物を干される方等、其々が自分の部屋として自由に使われている。夫婦での入居に隣同士の部屋を用意し、寝室と居間としての利用もあり、在宅での生活の延長とした工夫を行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリーになっているが居室から外に出る場合は段差がある。生活の一部としてあえて段差を残しました。入居前にご家族にはご説明を行ない了承を得ています。		